

授業科目(ナンバリング)	相談援助演習 I (DA106)			担当教員	坂本 雅俊・野田 健・丸山 貴志 ヴィラード ヴィクトル・裇 孝承		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
相談援助演習は、ディプロマ・ポリシーにある「人間尊重」を基本理念に据え、相談援助に係る知識と技術を理解し、実践的に習得することを目指す。そのため、本演習では相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、総合的かつ包括的な援助、また地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げることにより、社会福祉士に求められる相談援助能力の基礎を養う。							⑤⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した事例において、専門的援助技術を使用できる。				グループワーク 課題レポート	10% 10%	
情報収集、分析力	相談援助事例における具体的な課題について、総合的かつ包括的な援助の方針を考えることができる。				グループワーク 課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した事例において、専門的援助技術を使用できる。				グループワーク 課題レポート	20% 10%	
協働・課題解決力	高い意欲をもって、個人の活動、グループ討議等の演習に参加できる。				グループワーク	10%	
多様性理解力	具体的な事例を通して、相談援助に係る専門的知識と技術を説明できる。				グループワーク 課題レポート	10% 10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポート(40%)では、福祉の課題と専門知識、専門的援助技術に関する正しい理解に基づいて、理論的かつ明快に自分の考えを説明できたかを評価する。文字数不足及び誤字、脱字は減点の対象とし、未提出の場合は単位認定を行わない。グループワークでは、基本的なコミュニケーション技術を活用しながら、有意義なディスカッションに貢献できたかを評価する。課題レポートのフォードバックは授業内、または、ポートフォリオにて行う。なお、不適切な授業態度(教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等)は、発覚した場合に減点の対象となる。							
授業の概要							
相談援助事例を題材としグループディスカッションを通して、自己覚知と人の理解について演習する。また、具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した体験(ロールプレイング等)により、基本的なコミュニケーション技術、基本的な面接技術及び専門的援助技術への理解を深め実技演習を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修(2015)『社会福祉士相談援助演習』 中央法規 参考書：『社会福祉用語辞典』 ミネルヴァ書房 指定図書：社団法人日本社会福祉士養成校協会監修(2015)『社会福祉士相談援助演習』 中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
グループディスカッションを行うので教科書の該当箇所及び事例を事前に読んでおくこと。グループのメンバーを尊重し合いながら、積極的に発言すること、調べること、書くこと。新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組、映画等、広く社会の出来事に関心をもつことを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習の開始に伴う交流を、グループ・エンカウンターを用いて促進すると同時に、同技法を学修する。	復習：社会福祉の「演習」について理解する。
2	望ましい援助者の態度① 自己覚知	社会福祉援助では、援助者自身の自己覚知が必要であるため、利用者の自己決定の重要性を学修する。	復習：自己覚知について振り返りを各自行う。
3	望ましい援助者の態度② 自己覚知	演習プログラムを通じて、援助者として、自分が重要とする価値について気づき、理解する。	復習：演習で学んだ事例の振り返りを各自行う。
4	望ましい援助者の態度③ 自己開示	援助者として必要な自己開示について、演習プログラムを通じて理解する。	復習：演習で学んだ事例の振り返りを各自行う。
5	人の理解① 他者の理解	援助者として必要な他者の理解について、演習プログラムを通じて理解する。	復習：自己と他者との関係性について学びを深める。
6	人の理解② クライアントの理解	面接場面におけるクライアントを理解する方法について演習する。	予習：教科書 28-32 を読む 復習：授業内容を振り返る。
7	人の理解③ クライアントの理解環境の理解	ミクロ、マクロ、メゾに分けて人の環境を理解する。	予習：教科書 41p を読む。 復習：授業内容を振り返る。
8	価値のジレンマ	援助場面において生じる価値のジレンマについて、事例を用いて理解する。	予習：教科書 56-57 を読む。 復習：授業内容を振り返る。
9	コミュニケーション技術①	援助の為の面接の場で重要な、言語的表現の態度を学修する。	復習：演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
10	コミュニケーション技術②	援助の為の面接の場で重要な、準言語的表現の態度を学修する。	復習：演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
11	コミュニケーション技術③	援助の為の面接の場で重要な、非言語的表現の態度を学修する。	演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
12	コミュニケーション技術④	事例を用いて、コミュニケーションの演習を行い、グループで発表する。	演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
13	コミュニケーション技術⑤	演習プログラムを通じて、コミュニケーション技術を高める。	演習で学んだ技法を日常の中で意識して実践してみる。
14	社会福祉士の倫理綱領	社会福祉士の倫理綱領を用いて、グループで演習を行う。	予習：教科書 68 p を読む。 復習：授業内容を振り返る。
15	演習 I のまとめ	受講生自身による振り返りとまとめを行う。 (期限までに課題レポートを作成し提出する：詳細については授業時に指定する)	復習：演習 I で学んだ事項の振り返りを行う。レポート作成に向けて準備をする。